

「広島市立中央図書館等の再整備について」に対する意見募集結果について

1 実施概要

ア 期間 令和3年12月20日から令和4年1月14日まで

イ 方法 本市ホームページの応募フォーム、電子メール、郵送、ファックス、又は窓口（市民局生涯学習課）への持参

2 意見概要

ア 応募数等

応募数	215件
意見総数	344件
計画全体に関すること	153件
移転に関すること	117件
機能に関すること	36件
中央図書館に関すること	23件
移転に関すること	12件
機能に関すること	11件
こども図書館に関すること	74件
移転に関すること	70件
機能に関すること	4件
映像文化ライブラリーに関すること	6件
移転に関すること	0件
機能に関すること	6件
郷土資料館に関すること	5件
事業の進め方に関すること	59件
その他（他施設のこと等）	24件

イ その意見と本市の考え方

区分	意見の概要	本市の考え方
計画全体に関すること	<ul style="list-style-type: none"> エールエールA館への移転はJR広島駅周辺・商業環境の変化等にも、好影響を与えると考えられる。 立地も良いので、比治山のまんが図書館も一緒に移転し、漫画やアニメとも連動した文化の拠点を目指したらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 18ページ※の基本方針3にあるとおり、様々な連携を行うことにより、周辺環境にも好影響となるような施設にしていきたいと考えています。 ※ 「本市の考え方」で示すページについては広島市立中央図書館等再整備基本計画のものを指します。）
	<ul style="list-style-type: none"> 「平和文化の情報拠点」というならば、平和公園の近くにあるべきだ。 広島駅周辺地区以外の候補地は検討していないのか。 広島駅を利用する人が現在地より多いとは思えない。広島駅を利用するのは広島市民以外が多いのではないか。 商業施設のなかの移転には反対である。 中央公園は、文化・芸術・スポーツ・緑地の場所であり、現在地が望ましい。 エールエールA館もすでに古い。またすぐ使えなくなるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 18ページの基本方針2にあるとおり、来広者がアクセスしやすい広島駅周辺地区において、市民はもとより、広島を訪れる多様な人々が、平和への思いを共有できる場とすることを目指しています。 エールエールA館を移転先とした理由については、13ページの「3-3再整備する立地」とありますが、広島駅周辺地区以外については、まず配置の条件に最も適していると考えられる広島駅周辺地区で検討し、そこで適した移転先が見当たらない場合に、他の地区で候補地を検討することとしていました。 <p>※ エールエールA館は、主に広島駅南口開発(株)が保有・管理している施設です。</p>

区分	意見の概要	本市の考え方
計画全体に関する事 移転に関する事		<p>(前ページの続き)</p> <ul style="list-style-type: none"> エールエールA館は平成11年(1999年)4月にオープンし、築22年(令和4年1月現在)になります。 エールエールA館の法定耐用年数は39年(H10～R19)となっていますが、令和元年7月に第三者の専門機関に委託して調査を行ったところ、令和49年度(2067年度)までは、建物として必要な物理的耐用年数を有しているとの評価を得ています。
	<ul style="list-style-type: none"> 読書会や研修会などに使える会議室の確保。 多様な種類のスペースの設置。(飲食可・雑談可やスクール形式の部屋、畳に親子が並んで座れるなど。) エールエールA館と開館時間や休館日は合わせるべきである。 無料の駐輪場、駐車場がほしい。 バリアフリー化を進めてほしい。 レファレンス機能の確保。 ボランティア活動ができる。 適正な技量を有する人材の確保及び職員の待遇の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> これらの御意見については、本市としましても検討すべき課題であると認識しており、今後整備を進めていく中で対応を検討していきたいと考えています。
	<ul style="list-style-type: none"> 商業施設内では火災などのリスクが高く、貴重な本の安全性が保てないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物全体の防火対策については、広島駅南口開発㈱と慎重に協議していきます。なお、貴重資料の保管庫については、ガス消火設備を設置し、火災の際にも本が濡れることなく消火できるようにするとともに、上階での火災に対するスプリンクラーによる浸水についても、天井裏に防水受けを設置する等の対策を検討していきます。
	<ul style="list-style-type: none"> 図書館は市民の知識の向上を目的とする社会教育施設であり、市外の人々へのサービスを求める施設ではない。 平和文化の情報を目指すのは、図書館が担うことなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館本来の機能の拡充を図るとともに、広島を訪れる市外の方々へも、広島の歴史、文化、産業等の「広島らしさ」を発信する『『平和文化』の情報拠点』としたと考えています。
	<ul style="list-style-type: none"> 現状と同程度の面積では、蔵書等の増加や示されているような新機能に本当に対応できるのか疑問だ。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の3施設の合計面積は約10,000㎡ですが、再整備後においては、利用者サービス向上のための機能の拡充や蔵書スペースの確保などのため、現在の面積よりも広い13,000㎡程度とするよう計画しています。
中央図書館に関する事 移転に関する事	<ul style="list-style-type: none"> 現在地での建替えはなぜできないのか。 中央公園内への移転はできないのか。 旧市民球場跡地や、商工会議所ビルに建替えれば良いのではないのか。 商業施設に図書館はそぐわない。静かな環境であるべきだ。 政令市の図書館は単館で世界に誇れる美しい建設物であるべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 移転に関する本市の考え方は13ページ3-3「再整備する立地」のとおりです。中央公園内には他の施設の整備の状況等により、中央図書館等の移転先となる適地はなく、また現地での建替えを行うには仮施設の設置など多額の経費負担を要することから、配置の条件に最も適しているエールエールA館を移転先としました。
	<ul style="list-style-type: none"> 広島駅付近には東区図書館もあり、近すぎるのではないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館は、高度な学習や調査研究のための専門図書館としての機能や、広島文学資料など広島市としての特徴を有するものの収集等も担うなど、東区図書館とは役割が異なっています。

区分	意見の概要	本市の考え方
中央図書館に関する事	<p>機能に関する事</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央図書館は利便性を追求し、集客を求めるものではない。 市内図書館のバックアップ機能など、中央図書館として本来機能をしっかりやってほしい。 カフェがあると良い。 飲み物を飲みながら本が読むと本が汚れるので反対だ。 BGMを流してほしい。 <ul style="list-style-type: none"> コアワーキング（勉強や仕事）のスペースをつくってほしい。 閲覧室を確保してほしい。 引き続き自習利用できるよう配慮してほしい。 広域からの来館が見込まれるため、貸出カードの登録範囲を広げるべきだ。 現在地付近に予約本の受取や返却、ビジネス支援機能など一部機能は残してほしい。 Wi-Fi環境を整備してほしい。 デジタル化への対応をもっと示すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 17ページの第4章でお示ししたとおり、中央図書館本来の機能を更に充実させることで、利用者により満足していただける図書館を目指すとともに、これまであまり図書館に来る機会がなかった新たな利用者層を呼び込むことも重要と考えています。こうした観点から、誰もが豊かな環境で読書に親しんでいただけるよう、図書館の具体的な機能については、今後再整備を進める中で、ご意見を参考にさせていただきながら検討していきたいと考えています。
こども図書館に関する事	<p>移転に関する事</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史的経緯を考えると現在地が良い。 平和教育をするうえで現在地が最適である。 自然豊かな環境がある現在地が立地としてふさわしい。 ファミリープールが近くにあり、こども文化科学館と併設されている現在の環境が立地としてふさわしい。 図書館見学など、教育機関との連携が難しいのではないか。 こども図書館は単館であるべき。中央図書館等と一緒にすることで、これまでこども図書館が培ってきたこども専門の独立図書館としての役割が損なわれるのではないか。 商業施設内にあると不審者も入りこみやすく、子どもの安全が保てないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 11ページのこども図書館の集約化のポイントに記載しておりますとおり、こども図書館開設時の経緯や、これまで担ってきた役割を踏まえ、「子どものための専門図書館」としての機能を維持しながら、中央図書館等と集約することで、これまで以上に大人にも子どもにも親しんでいただけるような図書館を目指します。 移転後も、緑豊かな中央公園内で、親子等が居心地よく過ごせる環境を確保するために、こども文化科学館内に児童図書館の閲覧や絵本の読み聞かせが可能となる空間を整備します。 商業施設内であっても、子どもが安心して過ごせるよう、防犯にも十分配慮していきます。
	<p>機能に関する事</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども向けの自習室を作ってほしい。 おしゃべりしながら読書ができるスペースや授乳スペースはありがたい。 ボランティアが利用できる研修室がほしい。 館内におはなし会ができるスペースがあると良い。 子どもの感受性を養うことをもっと考えてほしい。 子どもの読書支援サービスなど、子ども図書館として児童サービスをしっかりやってほしい。 小・中学校を巡回する司書のバックアップの充実、ボランティアへの研修、応援、相談といったことも図書館の機能の充実をさせながら続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> こどものエリアについては、23ページにお示ししていることを中心に検討しています。子どもたちに豊かな読書環境を提供するために必要不可欠なボランティアの方々や、子どもたちにとって過ごしやすい図書館となるよう、レイアウト等の工夫をします。 具体的な機能については、今後再整備を進める中で、ご意見を参考にさせていただきながら検討していきたいと考えています。

区分	意見の概要	本市の考え方
映像文化ライブラリーに関すること	<ul style="list-style-type: none"> 現在あるホールの音響等設備機能がエールエールA館で維持をされるのか。 吹き抜けのあるエールエールA館で、音漏れ等が心配だ。 時代遅れで必要ない。 中央図書館と一緒にすることは良い。 適切な機器更新が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の複合施設に入っている民間映画館等を参考に、できるだけ同様の音響設備等を維持するとともに、他の空間に干渉しないよう音漏れ対策等は十分に検討します。 貴重な資料等の保存や、映画文化を学ぶ若者等の育成など、民間映画館とは異なる映像文化ライブラリー固有の機能があり、これらは今後も継続していくとともに、図書館と一体となることで、より魅力を高めていきたいと考えています。
郷土資料館に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 駅前に郷土資料館のサテライトがあるのは良い。 広島城との連携を強めて、浅野文庫を積極的に研究・活用してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 18ページの基本方針2にあるとおり、広島を知るエリアを設けることで、市民はもとより、広島を訪れる多様な人々が、広島歴史・文化に触れ、平和への思いを共有できる場とするを旨とします。
事業の進め方に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 今回の検討にあたり、市民や専門家の声が十分に反映されていないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画の策定に当たっては、これまで行ってきました図書館サービスのあり方についてのアンケートや利用者へのアンケートでいただいた御意見を踏まえ、検討を進めています。 また、社会教育施設の運営等に関し専門的知見を持っておられる方がメンバーとなっている図書館協議会、社会教育委員会、教育委員会においてもご意見を伺ってきました。 そのほか、図書館等の移転・再整備について見識が深く、魅力的な図書館空間づくりなどに詳しい方を招いて、官民連携のやり方や新たな図書館でのサービス展開などについて意見をいただいています。 引き続き、様々な方々からの御意見を伺いながら、基本設計などに反映させていきたいと考えています。
その他（他施設に関することなど）	<ul style="list-style-type: none"> 駅前に移転するなら青少年センターを移転すれば学校帰りなどに利用しやすいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館について「平和文化の情報拠点」とするを旨とし、市民はもとより来広者もアクセスしやすい広島駅周辺地区に再整備することとしたものです。青少年センターについては、現在の機能の維持を前提に、こども文化科学館と機能集約することとしています。